

日本市場の注目業種クラスターとモーメンタム効果 —ホットスポットマイニングによる網羅的探索—

岡田 克彦
羽室 行信

目 次

- | | |
|-----------|---------|
| 1. はじめに | 3. 実証結果 |
| 2. 仮説と方法論 | 4. 結語 |

本稿では、統計的疫学調査で用いられる「空間スキャン統計量」という尤度比統計検定量を援用し、東証33業種において統計的有意に上昇している注目業種クラスターを特定した。この方法はホットスポットマイニングと呼ばれ、近年急速に発展したアルゴリズム技術によって超高速計算が可能となった。特定された業種クラスターネットワーク内においては、情報伝播速度の違いによるモーメンタムが存在し、年率換算10%程度のインパクトを持つことが分かった。

1. はじめに

米国においてはモーメンタム効果が顕著に観察されることはよく知られている。Jagadeesh and Titman [1993] は、過去3カ月から12カ月間のクロスセクションの収益率で上位10%の銘柄群を購入し、下位10%の銘柄群を空売りすることで、

平均年率12%の超過収益率が得られることを報告した。こうした効果は世界の多くの株式市場で観察されている。Rouwenhorst [1998] はモーメンタム効果を調査した欧州の12カ国全てにおいて、1980年から1995年の間に年率平均12%と、米国と同様の超過収益率が得られたことを報告している。Moskowitz and Grinblatt [1999] は、



岡田 克彦 (おかだ かつひこ)

関西学院大学大学院経営戦略研究科教授。神戸大学 博士 (経営学)。モルガン・スタンレー証券、UBS証券、ヘッジファンド運用会社Halberdier Capital Singapore Pte.を共同創業後、2005年からファイナンス研究者。12年にAI研究者らとともに機械学習を用いた解析で投資助言を行う(株)Magne-Max Capital Managementを創業。現在CEO / CIOを兼務。専門は行動ファイナンス。行動経済学会常任理事。



羽室 行信 (はむろ ゆきのぶ)

関西学院大学大学院経営戦略研究科准教授。データ解析ツール開発会社(株)NYSOL会長、(株)Magne-Max Capital Management顧問を兼務。米国保健衛生局 (NIH)、ERATO湊離散構造処理系プロジェクト、CRESTデータ粒子化プロジェクトなどの大型国家研究プロジェクトにおいて、データマイニング・機械学習応用に関する研究実績は多岐にわたる。企業との共同研究実績、国内外論文、国際学会発表、学会賞受賞多数。